



特別展「ハチを知る」奮闘記 ～資料収集から展示まで～



半田 宏伸

平成30年6月30日から9月2日にかけて、特別展「ハチを知る」を開催しました。本展示は「ハチ」という昆虫がどんな生き物なのかということに重点を置いて、400種800点以上のハチ類標本を展示しました。本稿では、そんなハチ展の展示に至るまでの過程や、特徴、こだわったことについてご紹介します。

～まずは資料集めから～

ハチの展示にあたり、最も重要なのは実物の標本です。当館には私が博物館に学芸員として働き始めた3年前、ハチ標本の収蔵数は限られており、展示のためには新たに資料を集める必要がありました。ハチは春から秋にかけて活発に活動します。夏期の展示に向けて準備をするためには、標本を作る時間も考えると、前年度までに収集を終えねばなりません。さらに、昆虫は生き物なので、1回の調査で都合よく出会えるとも限りません。そのため、開催の2年ほど前から展示に必要な資料を意識した採集を行ってきました。

また、資料収集の段階で最も力を入れたのは写真資料の収集です。ハチ展では展示図録の制作も行います。図録は写真がなくては成り立ちません。生き物の展示ですので、生態写真が必要となります。しかし、写真資料は標本以上に不足の状態、ほとんど一から集める必要がありました。実物資料の収集は、それまでの経験もあったので、どのような種が不足してどうやって集めるかの計画がある程度見込めましたが、写真撮影は、ほとんど経験がなかったこともあり、何事よりも優先して収集に取り掛かりました。図録用のハチ類写真は、その特徴的な生態がわかる瞬間を収める必要があります。一つのハチでも、エサを狩るところや運搬、営巣など、収めたい生態は数多くあります。目的の一瞬をとらえるため、連日フィールドに赴いては炎天下の中ひたすらハチがやってくるのを待ち続けるようなこともありました。

表紙の写真は、オオセイボウというハチが、オミナエシに訪花しているところです。セイボウの仲間は美しい金属光沢で身を包んだ美麗種で、ハチ展をするなら、ぜひ紹介したいハチの一つでした。セイボウ類は晴れた気温の高い日に活動します。生息していそうな場所に見当をつけ、ひたすら探してやっと出会ったときに撮ったのが、表紙の写真です。

他にも調査中に写真撮影に夢中で、木の洞の中にあるモンズズメバチの巣に気づかず、追いかけて刺されるというアクシデントもありましたが、様々な方のご協力もあり、満足のいく実物と写真資料を集めることができました。



←テングチョウの蛹に寄生するチャイロツヤヒラタヒメバチ

→カメムシの卵に寄生するチャバネクロタマゴバチ



←バツタの仲間を巣に引きずり込むクロアナバチ

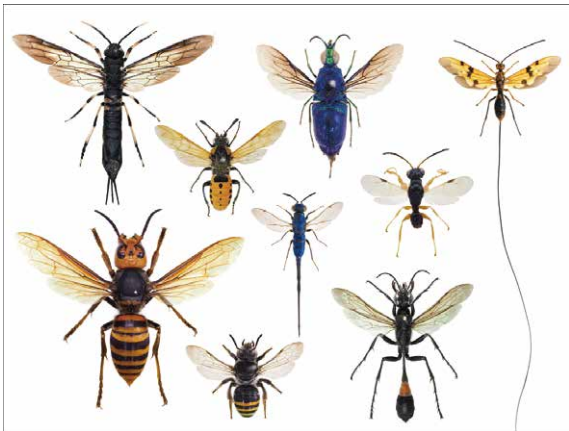
→花粉を集めているニホンミツバチ



～標本作成も一苦労～

展示物を見やすく理解しやすくするためには、きちんと整理されたレイアウトを構築することが大切です。しかし、昆虫標本ではレイアウト以前にもっと大切なことがあります。それが標本の作製です。昆虫標本の作り方が雑であったり、展示に向かない作りをしたものだと、標本の特徴をとらえづらく、見にくいものになってしまいます。見た人が昆虫の特徴を理解しやすくするためには、昆虫図鑑に掲載される標本のように脚や触角、^{はね}翅が整えられたものであることが望ましいのです。

ハチは脚や触角、翅が細いため、左右できれいにそろえて形作るのにも時間がかかりました。加えてハチの整えられた標本は、作る人が少ないため参考資料が少なく、標本一つ一つのポージングを試行錯誤しながら作成しています。そのため1つの標本につき10分～1時間くらいかかりました。時間をかけて作った甲斐もあり、4cmを超える大型のハチから1mm程度の微小なハチまで、他では中々見ることのできない400種を超えるハチ類の展翅標本コレクションが出来上がりました。



展示した多様なハチ類標本

～そしていざ展示へ～

当館の企画展示室は決して広くはありません。しかし、ハチのような小さな資料で展示を行うには、空間は十分に広く、準備した資料を申し分なく展示することができました。

展示構成は前半と後半の2分割にしてあり、前半には収集した400種以上のハチ類を展示し、ハチの分類群や生態の多様性を解説しました。スズメバチやミツバチのような、だれもが聞いたことがある身近なハチから、ウマノオバチやカマバチ類

のような独特な姿をしているハチ、セイボウ類のような美しいハチに加え、一般書籍には掲載されていない微小なハチまで様々なハチ類を展示しました。マニアックな標本も多数展示したため、本展示を目的として来館された方に、「気になっていたハチの標本が見られた」などのお声がけをいただき好評でした。



ハチ標本を展示した展示室前半部

後半はハチの巣や採集道具を設置し、顕微鏡でハチを観察できるコーナーを設けました。大型のアリ模型やハチの巣など大きく直観的にわかりやすい資料や顕微鏡による体験コーナーを設け、親子連れや観光で訪れた方に好評でした。



巣や顕微鏡を設置した展示室後半部

開催当初は、特に前半部の標本がマニアックすぎたのか、あまりご覧になられている方が少ないようにも感じられ、「少し難しすぎたか」と不安になりましたが、徐々に様々な層の方々が来館されるようになり、最終的には幅広い層の方々に、それぞれの楽しみ方でご観覧いただけたのではないかと思います。

本展示ををきっかけに、少しでもハチに興味を持つ方が増えていただけたら幸いです。



(はんだ ひろのぶ・学芸員)